

## 命 を ゴ ミ に し な い

## 活動の経緯

小諸市では野生鳥獣による農作物被害・生態系被害が増加していた。平成28年度、「猟友会」から「実施隊」や「認定事業者」による許可捕獲体制へと刷新し捕獲に取り組んだ結果、駆除個体数は大幅に増加し被害額は減少した。

しかし、捕獲された動物は「燃えるゴミ」「埋設ゴミ」として処分され、処分費用が高騰すると共に、倫理的な問題から捕獲個体の利活用が求められ、市として駆除個体の利活用を進める事業に取り組むこととなった。

## 活動の概要

捕獲個体を活用した商品化（ペットフード・皮革製品）や解剖実習（環境教育の実施）の実施。



ニホンジカを解体する様子



本施設で解体した鹿を用いた皮革

## 活動の成果、主な実績等

## ①小諸市野生鳥獣商品化事業

平成27年度に拠点施設「小諸市野生鳥獣商品化施設」を整備。小諸市で捕獲されたニホンジカのうち、9割以上をペットフードの原料や小諸市ブランドペットフードとして利活用した。年間300万円以上かかっていた捕獲個体処理経費の削減と有効活用、地域ブランド商品の開発など様々な成果を得ている。

## ②駆除個体 環境教育事業

駆除された鳥獣のうち、中型獣（タヌキ・キツネ等）を用いて、学生・児童に解剖実習を体験させる取組。獣医師が解剖指導を行い、生態学・形態学の高い知識を学生に伝えると共に、野生動物との共存など保全生態学的な観点を持ってもらう事が出来た。解剖実習は平成26年から毎年実施しており、毎年40名程度の学生が解剖実習に参加している。また、参加する学生のほとんどは県外者であるため、新たなエコツーリズムとなった。